

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度 第1回所沢市学び創造プラン推進委員会
開 催 日 時	平成28年7月13日(水)午後3時～午後4時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター 第5・6研修室
出 席 者 の 氏 名	〔委員〕赤堀侃司東京工業大学名誉教授、山口勝彦小学校長会長、川音孝夫中学校長会長、杉本勉小学校PTA代表、佐藤舞子健康づくり支援課保健師、橋本浩志社会教育課副主幹、本間博スポーツ振興課指導主事、田島直子所沢図書館主査、澤村文香保健給食課主査兼指導主事、須田昭仁所沢市子ども会連絡協議会副会長、小出敦子NPO子ども大学ところざわ代表理事、大寄尚子所沢第二幼稚園長、末吉麻里北秋津保育園長、柳田裕子小学校教諭、山下洋中学校教諭
欠 席 者 の 氏 名	斉藤祐次中学校PTA代表、小高正俊所沢市スポーツ少年団副本部長
議 題	1 協議及び報告 (1) 本委員会について (2) 「学力向上に向けた3つの目標と取組」について (3) 学び創造プラン学力向上推進事業の方向性について (4) 協議及び報告
会 議 資 料	1 平成28年度第1回所沢市学び創造プラン推進委員会次第 2 平成28年度所沢市学び創造プラン推進委員一覧 3 所沢市学び創造プラン推進委員会設置要綱 4 所沢市教育振興基本計画(一部抜粋) 5 平成28年度所沢市教育行政推進施策(一部抜粋) 6 平成28年度所沢市学び創造プランスタンダード研究校・クリエイト研究校研究題目一覧
担 当 部 課 名	学校教育課 電話04(2998)9238 出席者 内藤隆行教育長、田中和貴学校教育部長 堺俊彦学校教育部次長兼学校教育課長、結城尊弘学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、米澤三八子教育センター所長、佐藤佳岳学校教育課指導主事、原雅一教育センター指導主事、徳増由美子学校教育課指導主事、御菩薩池好行学校教育課指導主事、岩田健太郎学校教育課指導主事、藤田恵子学校教育課指導主事

式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	開会
司 会	進行は事務局の藤田が担当する。平成 2 8 年度第 1 回所沢市学び創造プラン推進委員会を開会する。
司 会	教育長より挨拶申し上げる。
教育長	<p>委員の皆さまにおかれましては、大変御多用の折、お集まりくださいましてありがとうございます。また、日ごろより、様々なお立場から、所沢市の子どもたちの健やかな成長のために御尽力いただき、心より、感謝申し上げます。</p> <p>さて、所沢市教育委員会では、23 年度よりスタートした、所沢市教育振興基本計画に基づき、「心身のたくましさ」「未来を拓く知恵」「ふるさと所沢を愛する心」の三つの宝を掘り起こして大きく育てるという基本理念のもと、教育を推進している。これはまさに今言われている「生きる力」と重なるものであり、所沢の教育は、次代を見据えた取組を着実に実践していると自負している。</p> <p>また、これまで推進してきた平成 23 年度から始まった「学び改善プロジェクト推進事業」では、所沢市の児童生徒に、学校・家庭・地域が一体となった取組により、学力向上に一定の成果をあげることができた。</p> <p>平成 26 年度からは、この事業を継承・深化させ、現在の「学び創造プラン学力向上推進事業」に取り組んでいる。これには、3 つの目標があり、学校を中心とした目標としては、「自分の考えを書く力、説明する力」をのばし、主体的な学びを支えるために、「授業の中に、考え、まとめ、表現する場を設定する。」の目標を立てた。家庭を中心としては、「生活習慣を見直し、家庭学習を習慣化しましょう」地域においては、「体験活動を充実させ、考える力、判断する力を育てましょう。」この学校、家庭、地域が一体となった取組を続け、26 年度からはこの事業を進めている。学校では、「この授業の中で一体何を学んでいるのか？」と先生が提示し、子どもたちも問題意識をもって学習し、授業の終わりには、自分の言葉でのまとめを行い、学習成果を確認している。そうした実践が着実に拡大してきた。多くの場面で子どもたちの表現活動、プレゼンテーション能力も高まっていると感じる。具体的には、運動部の生徒が市長を表敬訪問する際、運動だけではなく、合唱コンクールなどの学校の文化活動にも熱心に取り組んでいることを言葉豊かに伝えている姿がある。そういった子どもは、学級活動や特別活動、あるいはクラブ活動の中で、リーダー的な役割を果たし、リーダーシップを発揮できる力が備わっていると感じる。先日の「G7 倉敷教育大臣会合」の中で、今後地球環境や、人権や平和の問題を担っていける人材を育成する、いわゆる ESD 教育が大きな課題となっている。具体的にどういう力を育てていくかということ、情勢を分析したり、意見の落とし所、和解案を提案できたり、</p>

	<p>それぞれの利益につながる発展的な意見を展開したりというような力が必要であると考ええる。今、非常に科学技術が発展し、ある学者の話だと、「これからの子どもたちは、将来、今ない職業に就く可能性がある。」とある。例えば、私たちが子どもころ、バスに乗れば必ず車掌さんがいた。駅に行けば、切符を「かちん・かちん」とハサミで切ってもらった。でも今はいない。そのように我々が今、当たり前と思っている職業も、今後合理化してなくなるかもしれない。あるいは、システムそのものがなくなってしまうかもしれない。もうパスモは当たり前である。何駅へ、いくらかかるかなどと考えなくても、とりあえず乗ってしまえる。そのように時代はどんどん変わっていく。子どもたちの就職活動も大変だと思う。</p> <p>教えられた知識がこれだけあって、それをやったら90点取れて、学校でほめられて、社会に出た所で、必要なのは、その知識を使って自分を表現する、地域社会や自分との幸せとの関係で力を発揮できる力である。それは新しいものではなく、昔から言われていた力だと思う。学校教育法の中の「学習の三要素」と言われているが、「知識」基本を学ぶこと、日常生活や社会生活、自分のために駆使する「判断力や思考力」、更に、自分自身の学びに生涯学習にと活用していくという視点が言われている。20年前、30年前、40年前、50年前、いろいろな言われ方をしているが、学力の基本は変わるものではない。「アクティブラーニング」という新しいもののように思えるが、儒教的に言えば、「世のため、人のために学ぶ」そして、「教養や知識は実践されてはじめて真価を発揮する」ということ。決して新しいものではない。</p> <p>この学び創造プラン推進委員会は、「求められる学力とは何か?」「今、子どもたちに何が必要か」等を学校の先生方、校長先生方、また保護者の方、有識者の方々の御助言をいただきながら、教育行政として子どもたちのために、何ができるかを御意見いただきながら進めていく会議である。限られた時間で、いろいろ意見をいただくが、この場で言い足りなかったことがある場合は、担当の指導主事に御意見・御示唆をいただければ幸いである。</p>
司 会	委嘱状の交付を行う。今年度の委員を委嘱する方に委嘱状を交付する。
司 会	委員の紹介並びに事務局自己紹介
司 会	委員長の選出を行う。設置要綱第5条により委員長・副委員長については、委員の皆様の互選となっている。いかがか。
委 員	委員長を赤堀先生にお願いしたい。
司 会	拍手多数ということで赤堀先生にお願いするというのでよいか。 赤堀先生にお願いしたい。次に副委員長は、いかがか。
委 員	川音校長先生にお願いしたい。
司 会	拍手多数ということで川音校長先生にお願いするというのでよいか。 川音校長先生にお願いしたい。
委員長	委員長より挨拶申し上げる。

	<p>学び創造プラン推進委員会は、所沢市にとって大変重要な委員会になっている。内藤教育長、田中学校教育部長とも話したが、所沢の学校を見ていると、（私は所沢中の評議員をやっているが、）学び創造プランに従っているいろいろな面での取組をされている。現在、学習指導要領改訂に向けて「アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）」を取り入れることが話題となっているが、考えてみれば、子どもが積極的に学習に参加するという意味である。そのように考えると、「学びの創造」であり、学びを成立させようという主旨と捉えられる。そういう取組を所沢市では「学び改善プロジェクト」から考えると、今年で6年目と聞いている。「学び創造プラン」になってから、特に地元に着定している感じがする。このネーミングを考えた人は素晴らしい。川音先生とお聞きしている。いいネーミングをありがとうございます。これがだいぶ学校に着定している。先程、内藤教育長にも申し上げたが、これからももっとやっていかなくてはならない。新たな3年プロジェクトをやってほしいとお願いした。学校がそこに着定していくということはとても重要で、人は、目標があるから頑張れる。「所沢は学びを創造して、計画を立てて目標に向かっていく」という意識が、かなり強くなってきている。特にこの数年そのことを感じる。その母体となる委員会であるので、それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただいて、所沢をよくするんだという形で委員会を成立させていきたいと思う。</p>
委員長	では、事務局より学び創造プランの概要1～4をお願いします。
事務局	プレゼンによる説明
委員長	<p>事務局から説明があった通り、協議の視点がある。読み上げる。</p> <p>「児童生徒の言葉での学習のまとめ」について。主体的に学びとしての「アクティブラーニング」をどう取り入れるか。家読（うちどく）を含むチャレンジシートについて 地域の教育力をどう生かすか。協議ではあるが、それぞれの委員さんから、意見をいただきたい。どの観点でということをお願いしてから意見を伺いたい。</p>
委員	<p>所沢市の教育を向上させるということでこのようなプロジェクトに参加させていただき、子どもの保育に参考にさせていただきたいと考える。保育園では、お泊り保育が6月にあるが、生活カードを5歳児（年長）に渡して、朝起きた時間、朝ごはんを食べたか、うんちが出たか、何時に寝ればいいのか、何時に起きたらいいのか、保護者と一緒に生活カードをつけることによって、生活を自分で作っていくという所から、保育園の中で、生きる力を育てるという計画を立てている。小学校でやっている「チャレンジシート」に興味深く見せてもらった。子どもたちが、自分から主体的な活動をしていくという場合も人としての関わりが大事なので、保育・子育ての中で安心する大人がいてこそ意欲が生まれるということを懇談会やお便りで発信している。教育が、一番小さい乳幼児時期から大切であるということをかみしめて、今後も保護者の方に生きる力が備わるようにしていきたい。</p>
委員長	保育園・幼稚園・小学校の連携が必要であると感じる。

<p>委員</p>	<p>4番の視点であるが図書館吾妻分館、いきものふれあいの里センター、エコクラブウルセーズの方の力で、荒幡富士の広場で「森の図書館」を開いた。図書館吾妻分館から100冊ぐらいの本を借り、エコクラブの方からは広場に本棚を設置してもらい、生き物ふれあいセンターの方に教えてもらい、みんなで「どんどんどん」と大綱を作り、虫をとった。図書館というと、家の中で読むイメージがあるが、青空のもとで、寝っころがって本を読み、10名以上の保護者を巻き込んで、異空間での絵本体験をした。7月1日には、荒幡富士の山開きがあり、浅間神社の宮司さんにお祓いをしてもらい、山に初登頂をさせてもらった。保護者の方も一緒に、地域の方の文化にふれさせてもらっている。地域の方や保護者の方に発信をして、「幼稚園ではこのようなことをやっているのだ。」を理解していただけるようにしている。絵本のことなどは、保護者を巻き込むことで、学校のうちどくにもつながってく部分であるので、幼稚園では活動を大切にしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、所沢図書館で子ども向けのサービスを担当している。3の家読に関わるところで話をする。所沢図書館では、子どもの読書活動の推進ということで、平成26年3月に第二次所沢市子ども読書活動推進計画を策定し、「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるようにする」ということを目標として、様々な取組をしている。子どもの読書環境を整備充実することで、子ども向けのお話会や、科学遊び等を実施し、子どもが本にふれあい、科学の楽しさを知る機会を提供している。身近に本のある環境づくりとしては、学校図書館の本の充実として、学校や保育園、幼稚園との連携を行っている。市内小学校全部の3年生に図書館から司書を派遣し、本を紹介するブックトークを行ったり、調べ学習のための本の貸し出し等を行ったりしている。乳幼児期からの読書活動の推進では、保健センターと連携し、BCGの接種会場で待っている間のお母さんと赤ちゃんのために、読み聞かせやわらべ歌の紹介等も行っている。子どもたちに読んでほしい本をすすめるという意味で、1年間かけて選んだおすすめの本のブックリストを小学校低学年向け・中学年向け・高学年向けで作成し、夏休みのこの時期に一人一枚配布している。おすすめの本は、夏休みの時期に読んでもらうためのきっかけづくりとして努めている。紹介した本は、昨日からよく借りられていて、手ごたえを感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、平成27年度に所沢に戻ってきて、学校指導訪問などで、学校を訪問させてもらっているが、「学び創造プラン」が学校に定着していることを感じる。めあてがしっかり提示され、子どもの主体的な活動が授業の中で取り入れられ、子どもの言葉でまとめられているという授業の様子をたくさん拝見すると、子どもたちが生き生きと授業を受けている様子をたくさん目にする事ができる。素晴らしいと思うと同時に、この取組をいろいろな教諭が見て学ぶことが大事であると思う。全学校がスタンダード研究で3年間取り組むこと、更にクリエイティブ研究校として発展的な研究をしている学校の取組をいろいろな学校の先生方が見ていただくことが非常に大事になってくると感じる。</p>

	<p>「ノーマディア・早寝・早起き・朝ごはん」は、基本的な生活習慣が、すべての生きる上での源の基礎となってくるので、こういった取組を市全体でやっていただいているのは非常にありがたい。せっかくの取組をただやるだけではなく、配る際にどういった働きかけをして効果につながっていくか、また、この取組をこの期間だけではなく、毎日の生活の中に定着させていくためには、日々の生活の中でどのような働きかけを保健指導を通して必要なのかということを私自身意識して、学校の養護教諭の先生や、栄養教諭の先生方に確認させていただきながら研究していきたい。</p>
委員	<p>私は「学び改善プロジェクト」から関わらせてもらい今年で4年目となるが、このプロジェクトが社会教育の分野とどう関連していくか、当課で開催している事業が「学び創造プラン」にどう生かされるかの仕組みを作っていく必要があると感じている。</p> <p>学校教育分野においては、毎年、学校での取組ということで、スタンダード研究校、クリエイト研究校の発表があるが、どの学校も素晴らしい取組であると感じている。</p> <p>このプロジェクトに図書館やスポーツ振興課、保健給食課、社会教育課等の職員も委員として参加しているならば、学校教育以外においても、具体的な事例を示す機会があったらいいのではないか。</p> <p>「学び改善プロジェクト」で取り扱っているノーマディアは、PTAでも熱心に取り扱っている内容である。</p> <p>先日、私の次男が、母親のスマートフォンに無断でラインのアプリをダウンロードしてしまった。友達とつながりたいために、こっそりダウンロードしたようである。</p> <p>親として「まだ、ラインはだめだ。」と子どもに説得しているところである。メディアについては、家族の判断（意思）だけではコントロール出来ない難しさがあると思う。友達が持っているからという理由で、子にスマートフォンを持たせるべきでなく、持たせることで生じる弊害も考えて判断すべきではないか。今後も、「学び改善プロジェクト」を通して、様々なことを学んでいきたい。</p>
委員長	<p>学び創造プランの課題があれば、意見を言っていたきたい。</p>
委員	<p>私は、こちらに関わらせていただき2年目となる。私の業務は学校体育全般である。最終的には、児童生徒の体力向上と合わせて、運動好きな子を育てていただきたいということを先生方をお願いしている。所沢市の結果を分析すると、埼玉県が非常に高いレベルである。例えば、埼玉県の小中学校の男子が全国で7番目。小学校女子が全国で5番。中学校女子が全国で3番。その中で小学校は県平均並みになっている。中学生の方も県平均より高く、特に持久走などは、県平均より10秒以上高いという結果を出している。今、ちょうど小・中ともに新体力テストが終わり、結果が集まってきているところである。</p> <p>学校での授業では、めあてを提示し、最終的に今日何ができたか、何が分かったのかということで必ずまとめてもらうようお願いしている。体育を見ていると、活動があっても中身がないということと言われることがある。是非、子どもたちとの関わり</p>

	<p>の中で、先生からポイントを示してもらい、個々のレベルに合わせて指導をしてもらいたい。そして、子どもたち同士の学び合いをすすめてもらう中で、1時間でできるようになったこと、分かったことをまとめてもらいたい。</p>
委員	<p>健康づくり支援課で保健師をしている。今年初めての参加である。市の保健事業でも参考にさせていただきたい。保健センターでは子どもから大人までの健康づくりということで、いろいろな保健事業や計画をしている。今年度から4年間の実施期間として、所沢市保健医療計画を推進し、ライフステージごとの健康づくりを推進していく。児童生徒のこの時期には、リーフレットを作成し、「早寝・早起き」や「朝ごはん」、スマホの利用について載せているところである。保健センターで行っている3歳児検診でも小さいころからの生活リズムが、心も身体もいずれの学力にも、どれも大事ということでリーフレットを配っているが、小学校に上がる前の就学児健診では、入学を直前にして「生活リズムを見直していこう」と保護者向けにもリーフレットを作成している所である。睡眠時間が遅くなっている子どもが多く、不定愁訴で身体がだるいという子どもも多いので、「ノーマディアチャレンジ・早寝・早起き・朝ごはん」シートも興味深く拝見した。</p>
委員	<p>小学校長会の代表として話をさせていただく。昨年度までは事務局にいた。校長になったらやってみたいことを頭に思い描いていた。先程の「まとめを自分のことばで」であるが、学校に出て4カ月たつが、1時間の授業が分かる授業、授業のめあてを明確にし、児童生徒の言葉でまとめられている授業は、昨年度まで研究していたのである程度できている。うまい授業、きれいな授業は確かにある。しかしそれでいいのか。子どもたちが1時間満足できる授業でなくてはならないのではないのか。例をあげると、児童生徒の言葉で学習をまとめるでも、よく話せる子、口が達者な子が、今日の授業をまとめる授業ではなく、誰が答えても、誰の言葉でも「1時間の授業がこういう授業だったよ」と終わらないとだめだと思う。子どもの授業の楽しさは、自分の言葉で表現できて、自分の言葉が相手に伝わって、相手に理解される。自分の存在が分かってもらえて初めて授業の楽しさであると思う。そう考えると最後のまとめだけではなくて、1時間のどの場面でも、自分を表現できて自分がしゃべることができると思う。今までで、人間の性格であるからしゃべることができないという子がいるとは思いますが、先日、町を歩いていて、小学校時代の仲間に会った。向こうから、「あっ、じゃないか？」と言われた。私は分からなかった。彼はいるかないか分からない子だったが、「環境が人を変える」と言われた。環境で人が変わるのなら、授業で「ばね」を作れば子どもは変わっていく。それにはどうしたらよいか。職員室に入る時、大きな声で、「年組の です。～室の鍵を借りに来ました。」とおとなしい子もそれくらいの声を出すと、声は出る。朝のあいさつも「校長先生おはようございます。」と大きな声で話す。そうすると、子どもは変わっていくのではないかという話を職員の前でしたばかりである。</p>
委員長	<p>子どもが変わるというのが、すごく重要なことである。</p>

	<p>小学校PTA代表である。私はPTA役員の経験がなかったが、本年度会長を務めさせていただいている。保護者代表として我が家の状況を話す。3番のチャレンジシートについてであるが、かなり見慣れている。夏休みに向けて目標を立てる。子どもは目標を立てることによって、それを実行しようとする努力をする。ゲームでも通常1時間やるところを(うちは30分の規定があるが)、それでも時間オーバーしたりとか、昨日やらなかったら追加でやっていいとしている。チャレンジシートによって30分以内にゲームを終わらせますという目標を立てると、守る姿勢を見せる。</p>
<p>委員</p>	<p>また、水泳教室に通っているが、2か月に1回ぐらいの試験を受けるが、上のレベルに合格して、レベルアップを目標にすると取り組む姿勢が変わってくる。チャレンジシートは、子どもにとってノーマディアのハードルは高いが、1日はやらない日を設けるとすると一生懸命頑張る姿が見受けられる。</p> <p>4番の地域の教育力ということで、あいさつ運動を実施している。私も何回か参加しているが、朝、こちらが大きな声であいさつをすると、大きな声であいさつを返してくれる。小学生も増えてきた。町内会の行事では、中学生のボランティアの取組で、環境美化、お祭りの参加などに参加してもらっている。「ボランティアをやりなさい。」と言われると、やらされているとか、参加して力にならないなどという状態がある。しかし、年々成長とともに、自ら力を出して「今年は違うね」という声をかけられている中学生も見受けられる。地域に参加するということは、子どもの成長に重要であると感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、所沢市子ども会連絡協議会代表である。私が教育の話聞いて思い浮かべるのは、教育の場は3つあると聞いた。学校であり、家庭であり、地域社会であるということ。これを聞いたのは、18歳の時の研修会の時のことである。ちょうど40年がたったが、常に考えていた。私は子ども会という立場のため、社会教育の立場から話したい。家庭や学校の中で子どもたちはいろいろなことを学び、いろいろな実践をしている。実践をすることによって学んだことが定着していくと思う。ところが、学校や家庭の中だけでは学べないものが、地域社会の中にあると感じる。同年代というだけではなくて、先輩後輩と言われる1学年、2学年上の子どもたちとの交流、あるいは高校生、大学生、大人との交流という観点から見ても、教育とは違うものがあると感じる。学校の先生方はよく御存じだと思うが、「教えたことは忘れる。体験したことは忘れない。」ということによく言われている。子ども会では、リーダー研修を行っている。5・6年生向けにはインリーダーと言って、子どもたちの間でリーダーを決める。中学生には、本格的にリーダーになるための研修を行っている。中学生のリーダー研修会とは、情報発信ができていない。学校での話し合いのリーダーとだけいただくとよい。その分野が広がって、飯ごう炊さんできるとか、テントが建てられるとか、子どもたちと一緒に遊ぶことができるとか、そのような部分である。この中学生のリーダー研修会を見ると、ファシリテーターを育てていると感じる。導き手である。地域社会の経験は大きい。学校・家庭ではできない体験を子ども会では行</p>

	<p>っていると考えている。</p> <p>先日、保護者のみなさん、大人のリーダーの方に話を伺ったところ、「私たちががんばっているのだけど、もう少し学校となかよくしていろいろな情報発信をしていきたい。私たちのことを理解していただけていない。」という話があった。学校の方も子ども会活動に関心をもっていただけたらと思う。</p> <p>お母さん方、大人の指導者と呼ばれる方が、この20年ぐらいの間、こういった活動の経験のない方が多い。私たちが教えようとしても、自分たちが体験をしていながら分からない。体験したことのないことは教えられない。自分の知っていること以上のことは教えられない。今のお父さん、お母さん世代は、子ども会の理解がまだできていないのかと思う。同時にPTAの役員さんは順番で行うことがよくあるが、子ども会もいい活動を行っているので、役員と同じような扱いで、子ども会の役割を考えていただきたい。これからも情報発信をしていきたい。</p>
委員	<p>NPO子ども大学ところざわで代表理事をしている。子ども大学からは、今日の協議の視点でいうと1番の「児童生徒の言葉で学習をまとめる」ということ、2番の「児童生徒が主体的に学ぶためのアクティブラーニングの取り入れ方」で話をする。学校での取組が、子ども大学で発揮されていると感じる。今年で6年目を迎えるが、発展的な交流を取り入れたりして、子どもたちの取組の様子もだいぶ変わってきた。特に、アクティブラーニングであるが、子ども大学なので主体的に何かを学びたいという子どもたちが集まってきている。毎年50名から80名。多い時は80名を超す時がある。何かしら向上心のある子どもたちが集まってくるのだが、交流についても「大学」と名をうっているので、座学だと子どもたちは言うことを聞かない。体験学習を中心とした交流をいつも組み立てている。講義の最終には必ず振り返りを書いている。その時に、「自分の言葉でちゃんと感想を書いて下さい。」と伝えている。4年生は4年生なりに、6年生は6年生なりの言葉で自分の今日学んだことを楽しさや喜びを書いている。また分からなかったことについて、なんで分からなかったのか腹立たしいなどという表現もしっかりとしている。これが初年度と比べて大きな成長であると感じる。昨年から気になったことは、子どもたちは進化していくのに、これについていけないのが保護者の方である。実際に会場を早稲田大学の三ヶ島キャンパスや、日芸を使ったりしているが、「送迎に関しては親子で約束をしてから帰ってください。」とお願いしているが、保護者が子どもとはぐれてしまい、子どもが先に帰ってしまった場合、保護者の方が「どこにいったんでしょう？うちの子」ということが結構続いた。私たちも子どもが家に帰ったという連絡が入るまで待っているが、子どもたちは、しっかりと友達と一緒に帰っている。子ども大学の場合、同じ市内の4年生から6年生の小学生を対象にしているので、同じグループになった子が必ずしも同じ小学校であるとは限らない。意図的にばらばらに組み合わせている。すぐに友達になれるかどうかは分からないが、初日のアイスブレイクで友達になれる仕組みを作っていくので、どんどんいろいろな子と友達になっていく。保護者の分からないところで、交友関係ができてその友達と一緒に帰ってしまい、お父さん、お母さんがおいてきぼ</p>

	<p>りになり「どうしよう」ということがあった。先程話にあったラインが関係してくるのかもしれないが、大人がだめだといっても、どんどん進化して自分たちで主体的に使いこなしていく。その時、大人はどうしたらいいか。大人自身のメディアリテラシーに関して、保護者も力をいれていただくと、もっと子どもと共に更なる高みを目指して学びの場の提供ができるだろうと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>今年初めて委員会に入った。小学校ということで、年齢差、発達段階の差がある。初めて勉強に取り組む1年生から、中学生につなげるために自主的に、計画的に勉強ができなくてはならない5・6年生という子どもたちがいるので、発達段階に応じて段階をふんで、積み重ねて勉強をしていくようにしていかななくてはならない。先生方はそのようなことを意識しながら、毎日指導に取り組んでいる状況である。学年の先生方と相談をしたり、全校の先生方で情報交換をしたり、共通理解を図ったりして、子どもたちと過ごしている。</p> <p>1、2の視点であるが、一時間の授業の中で、どれだけ子どもたちが分かるようになっていくかということで、「めあて」を提示して学習をする。学び合いまでできないことがあるが、校内研修で交流という時間をなるべく作るようにしようという授業に取り組んでいる。自分が考えた意見や解き方等をグループや隣同士で意見交換をして、「こういう意見も、違う意見もあるんだ。」という形で、他の友達の考えを聞くという交流の場を作るようにし、少しでも学び合いに発展できるようにしている。</p> <p>まとめの方も、初めは自分の言葉でなかなか書けなかったが、1、2年生のうちは、先生が言った言葉をまとめるにしても、段階をふんでいけば、5・6年生では自分で、ポイントの言葉を使ってまとめられるようにと授業に取り組んでいる。</p> <p>ノーメディアに関しても、宿題や家庭学習についても、保護者の協力がとても大切で重要になる。小学校であるので、学校と保護者が同じ考えで同じ取組をして、子どもたちに接していけるように連絡を取りながらすすめている状況である。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度よりこの委員会に入った。中学校の代表ということで現場の経験だけであるが、その観点から話をする。学校であるので、1、2を中心に話をする。中学校においても、所沢市の「学び改善プロジェクト」から今年で6年目になる。目標、めあての提示、考えを引き出す発問では多くの教員が意識をして取り組むことができるようになってきた。ここ近年、若い教員がたくさん入ってくるようになり、柔軟性があり、研修が充実していることもあって、新しいものに対応がスムーズである。「自分の言葉でまとめる」とあるが、中学校は9教科あるので、実技教科、美術、音楽、技術家庭、体育については、授業内容がクリエイティブなものなので、まとめ方も自分で考えながらできているところがある。5教科については、中学校の場合、教科内容が増えるため、まとめると言って中身があるので、どうしても正解思考がある。「これは違うのかな？」というところで、自信の持てない生徒がいるということが課題としてある。</p> <p>中1ギャップというところであるが、複数の小学校から来ている生徒が多いが、一学期を終える頃に、小学校の違ったところの交流ができたりする。小学校の5、6年</p>

	<p>生の段階でも、教科担任制、教科によって担任の先生が入れ換わる学校も増えており、少しずつ慣れた状況となっている。学習内容が多くなってきているので、消化しながら理解を深めながら、自分の言葉でまとめるというところについている。</p> <p>本校の話であるが、学び創造のクリエイティブ研究を受けて、思考力・表現力を伸ばすということを課題としてやっている。中学校の場合、教科担任制の制度なので、そこをクリアするために、アートプロジェクトという武蔵野美術大学と連携して、今、週1回、5月から朝の10分の芸術鑑賞を行っている。絵を見て、そこで自由に発言させるというものである。目的は、正解がなく生徒が自由にいろいろなことを思い、発言に対し教員が意見を聞きながら、生徒同士交流を生んでいくといった、生徒の意見を引き出す場面である。これからというところであるが始めている。教科によって、ゲストティーチャー（外部の講師）をよんで話を聞く。そういった中で生かしている。</p> <p>ノーメディアとうちどくについては、中学生は部活動があるので、なかなか帰ってから時間を取るの難しい。ノーメディアはテスト期間を中心に、意識して取り組んでいる。家庭、保護者の協力を得てすすめている。</p>
<p>委員長</p>	<p>いくつか課題があると思う。全体的には、「学び創造プラン」はいろいろな観点での実行は確かにされている。やはりチャレンジシートのメディアとの関わりがまだ難しい課題があるという感じがする。これはもう少し取り組む必要がある。</p> <p>2点目は、保護者である。学校教育でいろいろやっても保護者との関連はどうしていったらよいただろうというところが気になる。保護者も忙しいし、すべて自分の子どもの教育にということだけではなく、保護者との協力がなければ、なかなかうまくいかないところがある。保護者をどうやって教育する、どう協力を得るのかということもいろいろな委員さんから課題が出された。</p> <p>3点目は授業そのもの。「学び創造プラン」では「ねらい」をまずは定めよう。それから、自分の言葉でまとめていこうということで、非常に定着はされていたけれど、果たしてそれだけでいいのだろうか？いろいろな事例が出されているが、もっと、まさにアクティブな、子どもたちが参画できるような仕組みというものを深めていくことで確かな学力に結びつくのではないかという意見が出たように思う。</p> <p>この3つをこの1年で更に深めていけたらいいと思う。それを含め、中学校の現状を副委員長に伺う。</p>
<p>副委員長</p>	<p>中学校の職員として、副委員長として内容を捉えながら話をする。1の自分の言葉で学習のまとめをしていこうという主題については、ねらいを明示した学習の意欲を喚起させるという意識についてはかなりどの学校でも高まってきていると思う。そうした中で、子どもの現状を考えた時に、子どもの考える力や表現する力を更に高めていく、委員長からあったように、どう授業に参画し、自分の力を高めていくかということは、この協議主題でやっていくことが適切であると思う。</p> <p>2つ目のアクティブラーニングの内容であるが、これまで子どもたちに主体的に学び生かそうとしてきた学習課題と、いま求めているものとの、どこまで一緒にどこがちがうのかということがまだはっきりしていないところがある。各学校の中でも</p>

	<p>クリエイト研究を受けている私たちの学校でも、深めていこうとしている所だが、事務局にお願いであるが、発信をしてもらえればありがたい。</p> <p>3番目のノーメディアの所は、ノーメディアは子どもたちのスキルの問題とノーメディアで生かした時間をどこにどのように使っていくかということについては、ぜひPTAの皆さんとやっていきたい。それは、単位PTAでもできるし、PTA連合会でもできると考える。</p> <p>最後の地域の教育力については、それぞれ地域の活動に積極的に出た所で、力を蓄えて、力を発揮するという場面が5, 6年前と変わってきていると感じている。本校の生徒も同じである。今後学校に求めていくものとして、この柱で考えていくのか、今回子どもたちの育成に関わる団体の方たちが、たくさんここにもいらっしゃる。その方たちの成果を拾い上げて、いろいろな所で発信をしていくというような場面があると、こうやって一緒にやっていく意味があると思う。</p> <p>私も子ども大学に関わる場面があったが、それぞれ違う学校から来て、でもその中でも自分たちの学びがすすめられている子どもたちの逞しさを見ることができる。いろいろな所で発信をしてもらうことが必要である。</p> <p>事務局の皆さんに交通整理をしてもらいたい。各学校で取り組んでいる1、2の内容をここにいる委員のみなさんにも、例えば三ヶ島中学校のクリエイト研究の発表をする際に、案内を出し、もし時間があれば、委員の皆さんに見ていただいて協議を深めていくというようなことができると、更に関連性やそれぞれの共通性が見えてきて、「ここをがんばりましょう。」という視点が出てくると感じている。</p>
委員長	<p>4つの視点ということで話があったが、アクティブラーニングの点、主体的に学習、活動に参加するといったことは、1年間、各学校で取り組む中で大きな柱をなっていると思うが、いろいろな活動を子どもが積極的にするということが重要なので、これについても是非今年1年で各学校、事務局で取り組んでいただくようお願いできればと思う。残り、部長、次長、センター長、教育長から感想を一言ずつお願いする。</p>
部長	<p>本日、委員の方ありがとうございます。それぞれの持ち場で活躍されている方の御ご意見であると思った。委員の方々が各学校、地域で、今のこの考えを広めていただきたい。この後部会があるが、部会でも事務局の方から、今日御提案いただいた内容を伝えることが一つの手立てとなると考える。来年度新しいものに向けて、本年度は総括をすると意味で、有意義な会であったと考える。</p>
次長	<p>この1年間で小・中学校に学校指導訪問をしているが、今取り入れられているのがアクティブラーニングである。西部教育事務所でも指導をすすめてもらっている。その内容が今後生かされていくと思う。</p>
委員長	<p>本日は、アクティブラーニングについての議論が少なかったので、事務局でもとりあげていただくようお願いする。</p>

センター長	<p>教育センターの研修会の一つとして、学び創造で取り組んでいただいている学校とタイアップをして、研究をその学校だけではなく、他の学校に広げることが教育センターの大きな役割であると思っている。学校で取り組んでいただいたものを周知する。</p>
委員長	<p>指定校は頑張っていると思うが、それを広げなくてはならない。せっかく3年間やっていて、所沢の子どもたちはよくなっている。できればエビデンスがほしい。学力テスト等で本当によくなったという証拠があれば、もっと力がつくだろう。</p>
教育長	<p>いろいろと職員の発言の機会を与えていただき感謝する。図書館の子どもの読書活動推進に関しての活動が評価され、今年文部科学大臣の表彰を受けた。第二幼稚園の園長から「森の図書館」の話があった。絵本の読書活動を一生懸命やっていただいている。今日ある幼稚園を視察したが、年長さんが山のように積んである本の中から、2冊ずつ本を持ち帰っていた。年間100冊、家庭で読み聞かせをよようにという読書活動を行っている。園長も子どもの読書活動推進委員を務めて実践をしている。すそ野が広がっていることを小学生の読書活動にすすめていただきたい。</p> <p>アクティブラーニングであるが、昨年度埼玉県学力調査でいい成績が出た。点数だけではなく、質問紙による学ぶ態度も非常にいい結果だった。今年は来週結果が出る。校長先生方には、点数が上がった下がったで、一喜一憂しないようにとお願いをしているが、努力の成果が出ればうれしい。課題が出れば、学び創造プランに沿って、自校の課題を煮詰めてもらいたい。委員のみなさんには、いい会議であるが、回数が少ないので、それ以外の場でも御意見があったら、学校教育課に御意見をいただけたらできればありがたい。</p>
	閉会